

千里山開発物語（後編一）

千里山人

戦時下の千里山

昭和十八年十月一日京阪電鉄と阪急電車とが合併して京阪神急行電鉄が発足した。千里山の開発はこれより京阪神急行、つまり阪急電車の手で行われることになるのである。この*昭和十八年という年は三月にドイツが降伏し、九月にイタリアが降伏した年で、日本軍もカダルカナル島撤退、アッツ島守備軍全滅など日に日に戦局は不利に向っていった。こうした非常時局に対処するための国家要請によって当時運輸省管理局長佐藤栄作氏の斡旋で京阪と阪急が合併したことは前編で述べた通りである。

*昭和十八年の二月ドイツ六軍がスターリングラードで降伏。ドイツの降伏は昭和二〇年五月。編集部

千里山遊園ではこの年十月一日より恒例の大菊花壇

が開かれた。菊作りの名人楠田嘉蔵氏が丹誠こめた大懸崖菊が幾十鉢もずらりとならんだ盛観を見せてくれたのも、これが最後で十一月に入ると遊園の名は時局にふさわしくないという軍の注意で十一日付で「千里山厚生園」という名に改めさせられた。随って電車の駅名も十二月一日より「千里山厚生園」と改められた。

府立山田公園のゴルフ場が閉鎖されたのもその頃である。大阪府が京阪電鉄より借地した期限が十九年であったが、こうした時局であったので府は引きつづいて借り、ここを軍の管理下に移して軍需物資の貯蔵所とするのであるが、二十万坪にあまる広い土地であるのでその一部は近村山田村や新田村の人たちの手で水田麦畑、芋畑になっていた。又周辺の山林地は京阪電車社員が勤労奉仕隊を編成して何回かにわたり開墾し、その開墾地にヒマの種を蒔いた。収穫したヒマの種と交換に電車の車両に使う潤滑油の配給を受けるという話であった。ヒマ栽培に熱心であったのも一年程で相当の収穫量があったが、後は続かず、阪急の合併問題のためそのままに終わってしまった。千里山丘陵の松という松が松根油を採るため根もとの幹に切り傷が生々しく入れられたのもその頃である。

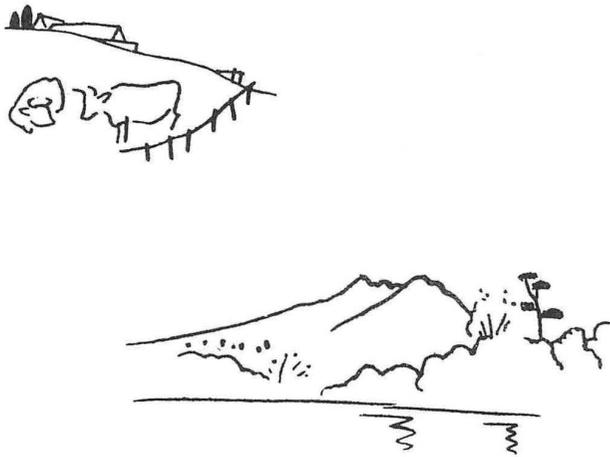
十九年の春、大阪では造幣局の通り抜けの花見客で賑わっていた。戦局不利とはいえ、戦場は海の彼方であつたので日本内地ではまだ花見のゆとりがまだあつた。その時突如空襲警報が鳴り出した。米軍偵察機一機東京上空に現れ、西下して名古屋大阪上空を通過したことをラジオの臨時ニュースで聞いて人々は改めて驚いた。之より戦場は本土に移る。サイレンは八月に入ってから時々鳴る様になる。本土空襲の時の輸送対策として駅の廃合が行われ千里山線では九月一日より大学前停留所が廃止された。十一月に東京空襲が始まる、翌二十年一月三日B 29約九〇機による大阪空襲が始まる。そして三月十三日の焼夷弾攻撃で大阪市の殆どは一夜にして廃墟と化した。三月三十一日千里山厚生園は閉鎖されて軍管理に移り軍需物資の分散貯蔵所に転換される。この頃より終戦まで阪神地区の空襲は烈しさを加えるのであるが、いつも千里山は空襲の対象になっていなかった。空襲による千里山の被害といえば六月七日十一時B 29が二五〇機で大阪北部地区を空襲した時、茨木、天神橋、十三、千里山間電車線が翌八日まで不通となつたのと、六月二十六日九時B 29、一〇〇機大阪に来襲し大型爆弾で淡路信号所がや

られて千里山淡路間が夕五時まで不通になつたこと位である。七月二十二日より艦上機が大阪上空に飛んできて機銃掃射するようになったが、七月三十日茨木、富田、蛍池、石橋来襲の時と、八月一日吹田、正雀来襲の時に千里山上空を通過して機銃掃射を加えた。いずれも人命、その他に被害はなかつた。防空壕に本気にとびこんだのは其の時位である。

私は千里山に住んで四十年になるが、この戦時中特に空襲の時程千里山に住んでいてよかつたと思つたことはなかつた。わずか千戸足らずの平和な住宅地を目標に空襲するとは思われなかつたし、万一あやまって焼夷弾が落ちても周囲に空地を持つ一戸建ての住宅地であるので類焼の心配はないと思つた。大阪空襲の無惨な焼跡を見て千里山に住居を持った身の幸せを感じずにはおれなかつた。私は千里山に住む幸せをもう一つ戦時下の千里山に於いて味わつた。住宅地を一步出ると千里の丘陵が目のとどく限りひろがっている。小道をたどると小池があり下に段々に畑が作られている。山の傾斜面には竹藪か或いは桃、梅、巴丹杏、無花果などの果物畑となっている。いろいろの小鳥が囀っている。戦争って何処にあるといった自然に充ちた

山野の風景に包まれて、どんなに心はなごやかにされたか。その頃は私は決戦服のいでたちでリュックサックを背負い山道をよく歩いた。雪が消えかかる頃山道に露のトウをみつけた。桃の花が咲き初める頃ツクシが摘まれ、桃の花が散る頃よりワラビが萌え出た。その頃竹藪では箭掘りが始まっている。箭をわけてもらつて乏しい配給米に混ぜて箭飯やワラビ飯を作つた。竹藪の隅からウドの根を掘つた。食べられる春の野菜は揃つていた。初夏から秋にかけて桃、杏、無花果、柿と果物は自由に買えた、それが私達の栄養失調を救つてくれた。山の池では鮒や亀をとつて蛋白の補給源としたこともある。

苦しく生き抜いていた戦時下の千里山の思い出はずいぶん、年がたつと共に懐かしくよみがえってくる。あれから二十五年の月日が経つた。千里山が開かれて五十年。その後半二十五年が後編となるわけである。



千里山開発物語（後編二）

千里山人

終戦のころ

千里山住宅は戦災にあわなかったので終戦の頃には戦災に罹った親類縁者を迎え入れて一軒に二所帯、三世帯同居の表札をかけた家が目立って増えてきた。千里山線沿線の人口は急増えたのと、終戦のどさくさで電車はいつもこみ合っていた。この輸送の混乱防止と復旧促進のためという理由で、九月二日より吹田停留所の使用が中止され、一九年九月より廃止された「大学前」駅と共に千里山線では二駅が無くなったのである。しかし車両や線路も次第に復旧されると共に翌二一年二月一日には「吹田」、六月二五日には「大学前」の二駅は復活し再開された。

食糧の不足、燃料の不足は一向よくなるはず住宅地の道路まで耕して野菜などを作らねばならなかった。千里山住宅地の象徴であったアカシアの街路樹

備と水道事業従事員を引継いで、市営水道事業の第一歩を踏み出すのである。

千里山菊人形

菊人形といえば、「ひらかた」という程枚方菊人形は京阪電鉄が開業以来手がけてきて、日本一の名声にまで高めてきたのであるが、その枚方菊人形も千里山菊花壇と同様に昭和一八年秋興行を以て終りを告げ、千百坪の鉄筋の大菊人形館は航空機組立工場に徴用されて、一九年春住友金属に買収されて撤去された。戦争は今後何年つづくかわからないが、いつか平和を迎えるであろうと、その日の準備にと菊の種苗、人形、舞台装置諸道具等を千里山遊園の倉庫に移して保管することとし人形師、菊作師、背景絵師、道具方などの菊人形興行になくはならぬ名人達は職を失ってバラバラに離散しない様に、その主な人の身分保障を講じて、その拠点を千里山遊園に移した。かくして二年経って平和は蘇った。菊人形のスタッフは集まった。菊人形をやるには人形の衣装に使う小菊の栽培、演し物の人形の首作りなど遅くとも四月には取りかからなければならぬ

が燃料に伐られて姿を消していったのもこの頃であった。しかし住宅地の人が一番困ったのは水道が度々断水したことである。豊津から千里山へかけて当時凡そ二千戸あまり給水していた千里山水道は電鉄が経営していて一昼夜二千石の水を汲みあげて配水していたのであったが、揚水ポンプの部品の補充ができず、すりへるまで酷使したため揚水能力は次第に低下して一昼夜千石あまりになつたのであった。

初めは時間給水をしていたが、遂には住宅地の半分、山の手一帯は断水するにいたり、殆ど毎日のようにバケツを両手にさげて下の方の水道の水の出る家まで水をもらいに行かなくてはならなかった。防空演習のバケツリレーならで、水もらいのバケツ行列が終戦の頃屢々見られた千里山風景であった。しかし、そのうちに終戦当時の混乱も次第におさまり、水道のポンプ部品が手まわってくるにつれ、断水騒ぎが無くなったのを機会に、京阪神急行電鉄は断水の経験にこり、上水道経営は本来公営企業であるべきを痛感したのであるう、二一年一月一日付を以て千里山水道設備一切を吹田市に無償譲渡した。吹田市はこれまで市営水道をもっていなかったもので、水道設

で、二一年秋より千里山遊園で枚方菊人形を再興することにきめて、四月よりスタートすることにした。

千里山遊園はその時はまだ厚生園という名称で軍需物資の貯蔵所となっていた。ガソリンや油のドラム缶や軍衣料品が相当量貯蔵されていたが、終戦となるとこれら貴重物資はまたくまに放出された。あとにバラック建ての貯蔵庫の建物だけが園内のあちこちに点在して残っているだけであった。そこで菊人形館はこの建物を充てることにし、第一館より第五館まで園内各所に点在していることも亦一つの趣向であった。

昭和二一年四月七日、千里山厚生園の名を千里山遊園と改めた。同時に駅名も「千里山遊園」と改称された。園内は相当荒らされていたが、全園覆うばかりの桜の木は健在であったので四月一日よりは花見客のために開園された。千里山に平和の春が初めて訪れた。

六月二五日「千里山」「千里山遊園」間に「大学前」駅が復活し、八月一日千里山線に始めて三輛連結の電車が二列車運転した。そして一〇月一日より千里山菊人形が開催された。千里山菊人形ではその

内容が世間の人にはわからないので「大阪名物ひらかた菊人形復活」というサブタイトルをつけた。「千里山に復活した『ひらかた菊人形』」で京阪神急行電鉄は派手に宣伝した。とぼしい資材と貧弱な菊人形館ではあったが、菊の香は昔に変わらず、人形師、背景師、着附師の名匠の腕は衰えず、古典美豊かな菊人形場面を見た人々は皆感嘆した。入場者数二三九、七〇五人、収入九九八、五一六円の成績であった。

翌二二年の春は菊人形の好評の余勢をかって映画スターの似顔に花衣装をつけた花人形を興行した。主催大阪日日新聞社、期間四月一日より五月二〇日まで、名称「映画五十年祭記念スター花人形大会」。秋にまさる人出で賑わった。千里山遊園の夏の納涼興行は開園以来毎年催してきた恒例行事であったが二一年夏から復活し、七、八両月大阪日日新聞社主催納涼映画大会の名で開催された。そして秋十月一日より「ひらかた菊人形復活第二回興行」のサブタイトルで第二回目の千里山菊人形が開催された。入場料大人二〇円、小人一〇円。内容は見流し一六場面

この外に百二十坪の菊花壇が作られて、長さ一丈に余る大懸崖菊三〇鉢、中小懸崖菊四〇〇鉢、実生木附菊、長さ九尺に及ぶもの一〇鉢、大輪菊三千鉢がならべられた。千里山菊人形の評判は昨年を凌駕した。

菊人形の評判が高まり枚方菊人形が千里山へいつてしまったことを残念に思ったのは枚方の人であり、京阪沿線の人であることは当然であって、ここに菊人形を再び枚方に呼びもどきたいという機運が起った。たまたま京阪電鉄が昭和二三年京阪神急行電鉄より分離することになったので、二三年秋に枚方パークが建設され、本格的な大菊人形館が建てられて菊人形は枚方に復帰した。それで千里山菊人形は二年で了ったが、しかし二年の千里山菊人形はその後、枚方、明石、綾部、武生、あやめ池等の菊人形を作り出す導火線となったということは銘記してほしいと思う。(つづく)

入口 自由の女神(人形一)
一号館

娘道成寺(人形五、六代目菊五郎の名舞台)
市原野の月(人形二、平井保昌、袴垂保輔)
大江山(人形七、電気応用、酒呑童子)
佐賀怪猫伝(人形三、電気応用、変幻する化猫)
白虎(人形三、水上乙二郎、登志、お艶)
金太郎(人形四、足柄山のお話)

二号館

助六(人形四、三浦屋の豪華場面)
瀧の白糸(人形三、本水使用、水芸場面)

三号館

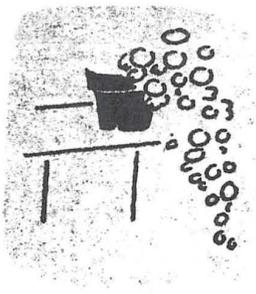
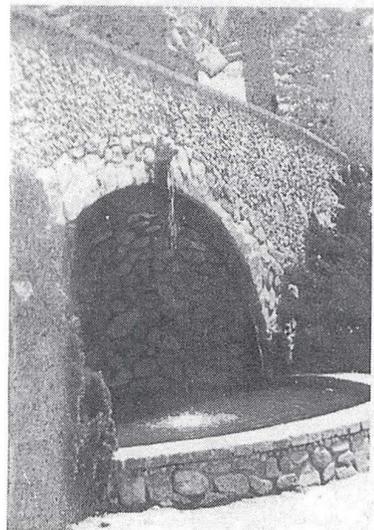
カチカチ山 山の場(人形二、電気仕掛動く人形)
狸の場(人形二、同じ)
泥舟の場(人形二、同じ)

四号館

カルメン(人形三、宝塚歌劇スター似顔)
歌麿(人形二)

屋外

滝夜叉姫(人形二、本滝使用)
車曳(人形四、吉田社頭場面)
鬼一法眼菊畑(人形三、菊花壇応用)



千里山開発物語（後編三）

千里山人

関西大学 千里山遊園地を買収

昭和二十三年の秋、菊人形が枚方へいつてしまったので千里山遊園はにわか寂しくなった。しかし園内の桜は老木になったとはいえ、まだまだ見事に咲いていたので翌二十四年春の千里山は三月二十五日より五月二十二日まで花人形を開催した。夏は納涼ドリームランドという名で夜間開園して日曜には花火大会、歌謡曲大会、素人相撲大会、盆踊りコンクールを開催した。菊のない秋の千里山は矢張り寂しかった。阪急電鉄では千里山遊園をこのままにしておけない、大改造するにしても遊園地経営というものは本来赤字事業であることは宝塚然り、枚方、あやめ池又然りである。運輸収入の見返えり収支バランスをとっているのが電鉄会社の遊園地経営である。天六千里山間の短距離運賃の見返りでは問題にならない、千里山遊園地の廃止、転換を考えるのは当時の電鉄当局として尤もなこ

とであったろう。こうした悩みの最中へ持ちこまれたのが財団法人カナダ聖母奉獻修道会というキリスト教の団体より資金が出されて女子学院を作りたいという申出であった。

千里山遊園地をそっくり学校用地とし、これに幼稚園より大学までの女子総合学園を設立する案に阪急電鉄は応諾し、譲渡価格一、二〇〇万円として学園側は手付金九五〇万円を納めて譲渡売買契約書が調印された。それで阪急電鉄は千里山遊園を二十五年の春一杯開いて閉ざることとした。四月十五日は吹田市が市政を施して十周年になるので、この記念奉賛事業として四月十五・十六両日園内相撲場で日本相撲協会の羽黒山、照国一行の大相撲が興行された事と、五月二十七日大阪府教育委員会主催のリズム運動発表大会が開催された事がフィナーレとなって千里山遊園は二十五年五月三十一日を以て閉園したのであった。

千里山遊園がキリスト教の女子学園になるそうだが、という噂が立ち初め、やがて六月一日より閉園の謹告ポスターが駅々に貼り出され、八月一日よりは「千里山遊園」の駅名が*「女子学院前」と改められるに及んで、噂が現実になつてくるのを沿線の人々は知った。

千里山線開通と同時に開園した千里山遊園はいわば千里山線と不離一体のものと考えていた沿線の人達、ことに住宅地の人達にとっては春に夏に秋に家族づれで遊ぶ唯一の遊園地として親しんできただけにその衝撃は大きかった。遊園地を失う寂しさとか愛着心より出た反対というよりも、都市民が公園を失うと同じ気持ちで、会社の営利的計算から出た処置に対する反感、公憤の方が大きかった。吹田市も千里山沿線市民の声を黙止できず市長議員連が、会社に遊園地再開の陳情に出かけるまでになったが、しかし、既に契約調印後であるので如何ともすることができなかつた。

* 原文「女子学園前」編集部

こうした市民の反対陳情がある一方に於いて千里山遊園がキリスト教の女子学園に売られたことに一番大きい衝撃をうけたのは関西大学当局であった。そもそも関大が千里山に大学を創設する時、校地に予定したところは遊園地の場所であった。それを当時の北大阪電鉄がこの地に遊園地を造成することにきめ関大に校地を奥にひっこんでもらい代償として五千坪を無償提

供した経緯は前編で述べたところである。

遊園地の場所は関大創立以来渴望の土地である。しかも関大は戦後の学制改革で校地校舎の拡張に迫られている時でもあった。即ち二十二年三月に関西甲種商業学校を関西大学第一中学校とし、二十三年三月に新制大学、四月に関西大学第一高等学校を創設し、二十四年一〇月大学院校舎成り、十一月体育館落成し、二十五年四月短期大学部が新設された。体制成つて学舎校地が不足している時、隣地が名も知れない新しい女子学園に売却された事は関大理事者にとって重大問題であった。関大では理事会と学生が一致して立ち上り、是が非でもこの土地を獲得しなければならぬ事を決議し、二十五年十月九日春原理事と学生代表東浦宇一君はカナダ聖母奉獻修道会代表マリージョセフ女史を訪れこの土地を関大に譲渡してほしいことを懇請し、一〇月十九日金銭上の細部交渉を残して関大に譲渡することが決定した。関大が修道会より購入した金額は二、二〇〇万円であったという。関大は千里山の人達とのつながりも深い、関大校地になるという事になつて千里山の人達の公憤も鎮静し、まずまず円満に千里山遊園地は関西大学の校地となった。そして二十六年

四月一日「女子学院前」の駅名は「花壇町」と変更された。

関西大学となった旧遊園地は今どんなになっているか、私はこの原稿を書くについて歩いて見ることにした。関西大学第一高等学校、第一中学校と書かれた表札のかかった正門のあたりは遊園地の頃と少しも変わっていない。平和の女神の像が昔のまま立っている。入って*右手が幼稚園で鉄網をめぐらして区画されている。児童遊戯場や猿や孔雀などの動物園のあったあたりであろう。すっかり変わっている。坂を右へ回ると扇形花壇はなく、樹々が大きく繁って緑陰の道をつくっている。これを登った処に音楽堂とよんだ余興場のスタンドがあったが、プールとなっている。スタンドのうしろの高い平場に茶店があったが、勿論ある筈はない、そこに教育会館が建っている。展望台の尾根が削られて広々と地ならしされ立派な鉄筋四階建ての建物がそびえたっている。関大会館である。昔この北に飛行塔があつて、その眺望のすばらしさが呼びもの一つであつたが、会館の屋上にも展望台ができている。今も昔もかわらずに千里の眺望をほしいままに

千里山開発物語（後編四）

千里山人

阪急電鉄、吹田市に土地を寄附

こんど京都家庭裁判所長を辞められた山崎薫氏が千里山へ帰って来られたので、千里山に三十年、四十年と住んでいる人達でつくっている千山会と、それから千里山自治会の有志によって歓迎会が開かれた。山崎さんは千山会の創立者の一人であるから千山会の歓迎はわかるが、自治会がこれに参加したのはこういうわけであつた。

それは京阪が阪急と分離して間もない頃であつた。当時はまだ総てにわたって戦後復旧が捗っていない頃で、千里山住宅地の道路が甚しく破損している、下水道が土中で破れたままで取り換えないため、大雨が降ると下水管の水が溢れて道路のまん中に大穴をあけ、自動車も走れないという道路が随所にあつた。千里山自治会では吹田市にこの道路修繕を申し入れると、住宅地の道路は阪急電鉄が修理することになっていて市は与り知らないという返事。税金

している。会館の東は往事は大斜面になつて桜が全面に植つていた処であつた。その下に滝がありボート池があつて、遊園地の一番良い所であつた。今は桜の木も滝もなく池だけが残っている。池は切石で畳まれ、睡蓮の花が咲いていた。遊園地と関大との間にミカン山があつたが、今それが舗装されて大駐車場になっている。一高と一中とは正面入口を右手に入つたところにある、グラウンドは旧のまま、その東に校舎、講堂、体育館が建っている。沈床花壇のあつた処が食堂となつている。建物は年々建て増しされ、そのたびに変わつてゆくであろうが、全体的に見て丘陵のすがたや校内道路は變つていない。ことに開園当初植えられた樅、樟、楓、松などの樹が大きく成長して五十年の年輪を示し、学園に風格を増す如く風致を添えてくれるのが何よりもうれしかった。(つづく)

*左手の誤りか 編集部

だけは遠慮無く取り立てておきながら何故そんな返事をするのかと調べてみると、千里山住宅地が大阪住宅経営株式会社の手でつくられた時、住宅地内の道路は会社の所有地であるので会社が道路修理夫を常備して道路を管理していた。その後京阪電鉄が之をそのまま引き継いだ、道路を私有道路にしておくことは万事不都合なので「該道路の修繕は一切当社において負担する」旨の一札を納れて千里村に寄附し村道としたのであつた。千里村が吹田市に合併された時、この一札をつけたまま吹田市道となつたので、吹田市は千里山住宅地の道路修繕は少しもやらず、京阪電鉄が道路人夫を常備して維持管理していたのであつた。ところが阪急電鉄が千里山住宅地の経営を京阪より引き継いだ時、その点の引継ぎが充分でなかつたと見え、阪急は市道の修理は市が当然なすべきである、その一札なるものは時効になつていると強弁して一向に修理しないので、住宅地の道路は荒れるがままで、至る処に穴があいて危険の上ない状態であつた。千里山でなく千里穴となつたと奮慨した千里山自治会は、道路の存在する限り道路の管理修繕義務はある。時効でなくなるものでないと主張する住民山崎判事の意見に元気づいて、

阪急との交渉に是非山崎さんに出てもらいたいと頼んだのであった。住宅地の住民のためならばと山崎さんは吹田市の村田助役と阪急本社へ出かけて説得に努められた。山崎さんの正論に阪急も屈し時効論を引つ込め、道路修繕をしなければならぬ責任を感じたのであるが、さて住宅地全域の下水管を新しく取り換えるとなると、ざっと見積もって二千万円ほどかかる。その当時の阪急は電車の方の輸送関係の復旧費に金の要る時であったので、その金を捻出するところがない。そこで住宅地の周辺で吹田市内の阪急所有地を吹田市へ寄附するから、之を財源として吹田市において千里山住宅地の道路を修理してほしいとの申出をした。吹田市は之を承諾した。

阪急から寄附をうけた土地は千里山農園約一万坪を初め、住宅地の周辺に散在していた数ヶ所合わせて約一六四〇〇坪であった。

土地は吹田市へ寄附されたとはいえ、之を売却した処分金は「千里山住宅地の発展に寄与するために使用する」ことの確認を山崎さんは吹田市より取ること忘れなかった。この土地の売却処分金は九、八〇〇万円あった。このうち六、〇〇〇万円が住宅地の下水管は全部新しく入れ換えられ、道路は全部

舗装されて面目一新した。残った金で千里山会館が鉄筋に改築され、学校のプールもつくられた。この他に山崎さんが千二小学校の増改築や運動場敷地拡張等に尽くされた数々の功績が自治会長より語られて、その当時の思い出話に一と花咲いたのであった。

郊外学園緑ヶ丘住宅地となる

終戦の当時、千里山住宅地の周辺に十万坪、山田に十五万坪程の土地を京阪神急行電鉄は持っていた。それが例の農地解放の嵐で旧山田村、新田村の農地委員会の手でその大部分が収用されてしまい、その中で残った重なものが会社の直営していた千里山農園約一万坪と千里山郊外学園約三万八千坪、それに山田ゴルフ場跡の山林地約四万坪であった。あとは合法的な小作人もあったが、非合法的な便乗耕作人達に分割して取られた。敗戦による虚脱状態の時、連合軍の指令した旧日本帝国の封建的地主制度を打破する農地改革の前には地主は全く無抵抗であった。これに反し農民側はもの凄いらっしゅで農地を獲得した。千里山の大地主であった京阪神急行電鉄は僅かに残った土地のうち千里山農園他残地一万六千坪は前述の如く吹田市に譲り渡して、残るは郊外

学園だけとなった。

千里山郊外学園については既に前編に述べたが、昭和十三年に住宅地の西南部に隣接する土地三万八千四百四十二坪を二十年間大阪市に無償で貸し、学舎諸施設を京阪電鉄が建てて市へ寄附してつくったものである。戦時下大阪市内の国民学校生徒の郊外教育訓練の場として、それなりの効果を挙げ、年間十五万人の児童を動員していた。ところが終戦後、教育制度の改革で郊外教育訓練指導ということがなくなり、学園敷地は荒廃し、大阪市の管理下にあるとはいえ教育の対象として運営されていない現状であった。昭和二六年の住宅金融公庫の制度ができ、この金融公庫の融資によって十八年賦償還の住宅建設を目的として設立した大阪住宅建設協会は小林一三、原田憲氏の後援を受けて住宅地を物色中、この郊外学園の敷地に目をつけた。現下住宅建設が切望されている時に、何もせずに遊ばせているのは勿体ない、この土地を大阪市より返えしてもらい住宅地に開発せよとの小林一三さんの直命が阪急の宮野土地経営部長に下った。阪急は早速大阪市に交渉したが、市は借用期限が昭和廿三年までであったので、そう簡単に返還しそうでなかったが、大阪住宅建設協

会長の北村正治氏は中井市長に直接談判して強引に承認をとった。あとで佐藤教育部長の反対にあったが、北村氏は千里山の代替地を大阪府の持つている箕面公園内に求め大阪市立箕面健康学園を作り、学舎は協会が建て、ピアノ寝具食器等の備品は阪急電鉄が寄附して、やっと大阪市は立ち退くこととなった。市より返還をうけた郊外学園の土地は実測すると四万五千坪程であった。大阪住宅建設協会はこれを一括して阪急より譲り受け、昭和二八年二月二十七日売買契約を結んだ。宅地造成のできている土地は一万六千坪で、之らは富士銀行寮や集英寮等に分譲されたが、未造成地約三万坪は山あり谷あり竹藪ありの荒蕪地であった。当時としては進駐軍しか使っていないなかった大型のブルドーザーを使って、宅地造成工事を大がかりにやった。

こうして出来上がったのが現在の緑ヶ丘住宅地である。丁度その頃より朝鮮事変ブームがおこって、住宅地の地価が昂騰し始める。(つづく)